

# 東久邇宮記念会 二大賞のご案内



東久邇宮盛厚殿下と創設者豊澤豊雄の思想・哲学である、「大きな発明ばかりを尊ぶのではなく、小さな発明やアイデアも同じように尊ぶべきである。おいしい味噌汁を考えて、皆が喜んでくれるなら、その人も同じように尊ぶべきである。発明には上下貴賤の別はない、みんな尊い。ノーベル賞を百とるより、国民一人一人が小発明をすることの方が大切だ。今こそこの日本で一億総発明運動を起こしたい」

このような理念から昭和38年に東久邇宮記念会が発足されました。さらにその理念は継承され平成14年10月よりNPO法人発明知的財産研究会（現：発明文化研究会）の事業となりました。当会では、毎年4月に東久邇宮記念賞授与式11月に東久邇宮文化褒賞授与式を開催しております。この二大賞は、皆様から親しみを込めて「大衆の二大ノーベル賞」とも言われています。

東久邇宮記念会の歴史はここから始まった…



豊澤豊雄名誉会長（左）と東久邇盛厚殿下（右）

大衆発明を奨励された東久邇宮盛厚殿下と大衆発明生みの親、豊澤豊雄名誉会長を称える

## 東久邇宮記念会

特定非営利活動法人発明文化研究会

〒338-0002

埼玉県さいたま市中央区下落合4-19-13-103

営業時間：火・水・金曜日（10:00～15:00）

TEL&FAX 048-762-3860

HP <https://hachiken.jimdofree.com>

《推薦・連絡先》



当会は、皇籍離脱後の東久邇宮盛厚殿下と豊澤豊雄名誉会長が設立した団体です。宮内庁や他の国の機関とは一切関係がございません。

当会は民間の非営利団体です。（国からの補助金・支援等は一切ございません）皆様のご協力、ご支援（受賞費用のご負担等）により運営されております。

# 東久邇宮記念賞

毎年4月18日（発明の日）前後に挙行



昭和天皇の女婿であられる東久邇宮盛厚殿下の発明哲学は「発明には上下の貴賤はない。小発明ほど尊い、ノーベル賞を百とるより、国民一人一人の小発明が大切だ。うまいミソ汁を考えた人には文化勲章を与えよ」といわれて我々の名誉総裁になってくれた。  
晩年、病に臥せられたとき、私を招いて「わが家の名と財産を使ってよいから、産業や文化の発展につくした方に皇族賞を出して顕彰してほしい」と仰せられた。  
この東久邇宮記念賞は、その遺言によって生まれたのである。したがって、名誉顧問には総裁夫人である東久邇佳子様がなられている。高松宮賞、秩父宮賞と共に三大宮様賞として親しまれている。

平成9年11月 豊澤 豊雄 謹記



吉村靖弘名誉会長より  
表彰される岩田元吉現会長  
(2011年 撮影)

東久邇宮記念賞受賞者は、評議委員会によって選ばれます。受賞条件として、以下に該当する方となります。

- ①産業、特に発明活動に従事し、その振興に携わっていること。
- ②産業、特に発明活動における社会的評価を受けていること。
- ③人格的にも優れ、将来への展望を持ち、努力を怠らない者。

# 東久邇宮文化褒賞

毎年11月3日（文化の日）前後に挙行



東久邇宮盛厚殿下の発明哲学は「発明には上下の貴賤はない。ノーベル賞を百とるよりも、国民一人一人の小発明が大切だ。旨いミソ汁を考えた人には文化勲章を与えよ」という思想だった。私は痛く感激した。この「文化勲章論」は、議員連盟75人の心を打った。  
それから、殿下と私の二人三脚の運動が続いた。そして、私でさえ藍綬褒章を賜った。それを機会に、私は科学技術庁の中に褒章クラブを創った。この褒章クラブは科学技術庁長官が顧問、私が幹事長となり、35年も続き、科学技術庁公認の団体となったが、文部省と合併して無くなったので、褒章クラブも無くなってしまった。  
ところが、褒章クラブの中心だった中小企業の社長連中が「あの文化褒章は文化勲章に匹敵する賞である。これは長く中小企業の社長に与えるべきだ」と私のところに多くの要望が寄せられた。[そこで、私は百歳になったのを記念して、もう一働きと思って「文化褒賞クラブ」を復活したのである。この文化褒賞は中小企業の社長から今、もっとも切望されている賞である。  
皆さんもぜひ受賞してもらいたい。

平成19年9月 豊澤 豊雄 謹記

東久邇宮文化褒賞受賞者は、評議委員会によって選ばれます。受賞条件として、以下に該当する方となります。

- ①文化的活動（芸能、音楽、教育、医療、福祉、奉仕活動等）に従事し、その振興に携わっていること。
- ②文化的活動における社会的評価を受けていること。
- ③人格的にも優れ、将来への展望を持ち、努力を怠らない者。